

# 時代作りを支えた職人たち

五ノ神社の山車作りには八王子や府中、秩父など各地の腕利きの職人たちが参加した。五ノ神の新たな時代作りを陰で支えた職人たちの仕事を紹介する。

木彫刻師

いのうえ しんいち  
井上 進一さん

命を宿す  
“神の業”  
かみ わざ

八王子にある井上さんの工房を訪ねたのは平成29年の夏のことだった。山車の正面に設置するスサノオノミコトを彫り始めるところだという。彫り物の中でも山車の顔となる最も大きく重要な部分だ。使用する木材はイチヨウ。イチヨウは繊維が細かく折れにくいいため、彫り物には最適なのだという。

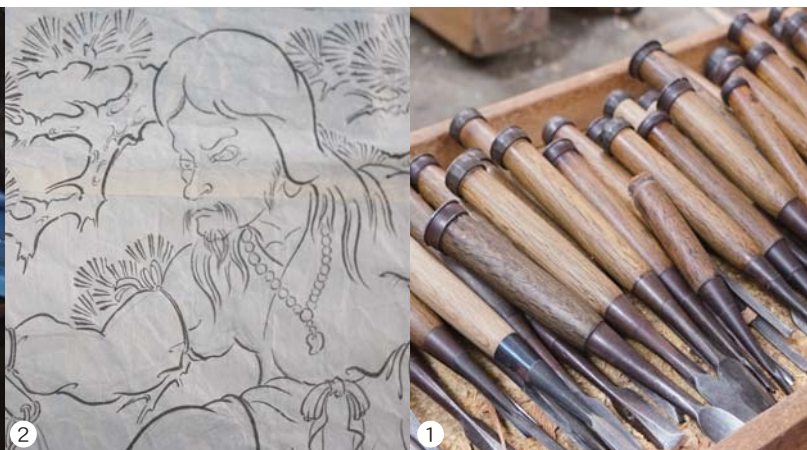
ゆうに2mはある木材を前にしばらく考えた後、井上さんは静かに彫り始めた。数十本のノミを巧みに使い分け、時折設計図と見比べながらどんどん彫り進めていく。設計図といっても、平面上に描かれただけの絵だ。井上さんの頭の中には立体的なイメージが浮かんでいる。

彫り始めてから1時間も経たないうちに像の輪郭が現れ始めた。井上さんには、あたかも木の中で眠るスサノオノミコトの姿が見えているかのようだ。

4か月後、完成した彫刻は今にも動き出しそうなほど生き生きとしていた。彫刻に命を吹き込んでいく技は正に「神業」だ。しかし「山車はあくまで道具。お祭りの主役は町の皆さん。山車の上でお囃子を楽しんでくれれば嬉しい」と井上さんは語った。



4



1



5



2

3



宮大工  
こみね よしゆき  
小峯 義之さん



6



宮大工  
こみね まさひこ  
小峯 雅彦さん

こんなに楽しい  
仕事はない

山車本体の製造を担当したのは八王子の宮大工、小峯雅彦さんと弟の義之さんだ。これまで数多くの神社や山車の建築・修繕を手掛けてきたが、先代から家業を継いでから、兄弟が主体となって山車を作るのは初めてだった。「プレッシャーは相当あった」と雅彦さんは振り返る。「とにかく時間との戦いだった」と語るのは義之さん。釘をほとんど使わずに木を組み上げていく高度な加工技術こそ宮大工の真骨頂だ。しかし、その複雑な加工には多くの時間を要する。時間のかわらない楽な方法もあるが、そこで妥協するかわらないので山車の完成度は大きく変わってくるのだという。百年後まで受け継がれる山車を作るため、二人は表からは見えない部分も決して妥協することはない。時間は追われながらも、さすがは長年ともに過ごしている兄弟。絶妙なコンビネーションで見事に山車を作り上げた。

春季例大祭当日、巡行する山車を見て雅彦さんは言った。「大変だったが、自分たちの作った山車で、たくさんの人に喜んでもらえる。こんなに楽しい仕事はない」

YouTubeで配信中!

五ノ神社の山車新造の様子をYouTube羽村市公式動画チャンネルで配信しています! 建造開始から春季例大祭までの2年間を記録したドキュメンタリーです。こちらもぜひご覧ください。



羽村市公式動画チャンネル

問合せ 広報広聴課広報係 ⑤505

【写真解説】①井上さんの商売道具のノミ。②スサノオノミコトの設計図。③制作中のスサノオノミコト。下から見上げた時に最も美しく見えるよう彫っていく。④車輪に鉄の輪をはめる様子。1000℃に熱した鉄の輪を木の車輪にはめ即座に水に沈めて固定する。秩父の職人が担当した。⑤車輪の製造は府中の木工職人が担当した。⑥山車の屋根部分の骨組み。⑦山車の最終的な組立ては羽村でクレーン車を使って行われた。⑧山車の屋根に施された板金。美しさと機能性を兼ね備えている。



8



7